

日本とアジアをつなぐ架け橋に！ “日本語パートナーズ”第1陣、9月出発 20代学生から60代会社員OBまで、59名をASEAN諸国に派遣

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターは、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までに、3,000人以上の“日本語パートナーズ”をASEAN諸国(東南アジア諸国連合)へ派遣します。この事業の第1陣として、20代から60代まで様々な視点と経験を持った方々合計59名(タイ29名、インドネシア25名、フィリピン5名)が、約1か月の研修を終え、9月より順次出発します。



“日本語パートナーズ”タイ、インドネシア、フィリピン1期 59名
研修最終日(国際交流基金 関西国際センター)

“日本語パートナーズ”は、日本語教育の現場で現地の先生をサポートしながら日本文化を紹介する等、派遣される国での日本に対する理解を深めるため日々活動します。

また、学校の生徒や地域の人たちとの交流を通じて、現地の生活に溶け込みながらその国について学び、将来日本とアジアの架け橋となることが期待されています。派遣期間は6か月から10か月で、初年度となる2014年度は、ASEAN10か国のうち、5か国へ約100名を派遣します。来年度以降は段階的に派遣する国や人数を増やしていく予定です。事業の詳細やご取材については、お問い合わせください。

2014年度 第1陣 出発スケジュール及び派遣期間 (予定)

- ・ タイ1期 9月12日(金) [6か月]
- ・ フィリピン1期 9月16日(火) [6か月] / 10月14日(火) [10か月]
- ・ インドネシア1期 9月21日(日) [9か月]

<“日本語パートナーズ” 例>

タイ1期・橋本美香さん(21歳、大学生)：タイが大好きで応募。“日本語パートナーズ”として活動しながら、タイ人の友人を増やしたい。帰国後は日本語教育を学ぶため大学院へ進学予定。現地での経験をいかしたいと考えている。

インドネシア1期・山内加寿子さん(55歳、主婦)：日本にとって身近な国々である東南アジアで、自分も役に立ちたいと思い応募。日本の良いところをたくさん知ってもらい、インドネシア人が日本へ来るきっかけとなるような活動をしたい。

フィリピン1期・上田達夫さん(68歳、会社員OB)：企業に長年勤務し、退職後は日本語教師のボランティアとして活動。“日本語パートナーズ”は日本の「プロモーター」という意識で、活動を通して日本の良さを売り込みたい。

本派遣事業では、2014年度内にベトナムおよびマレーシアの1期、インドネシアの2期を順次派遣する予定です。来年度以降の募集要項、説明会等の詳細については、ウェブサイト(<http://jfac.jp/>)にてお知らせいたします。

【国際交流基金アジアセンターとは】 <http://jfac.jp/>

2014年4月に、日本とアジア諸国との文化交流の促進および強化を目的に、国際交流基金内に新設された部署。アジアセンターでは対話と交流を進め、知識の共有と共感の意識を育み、協働という経験を通じた新たな文化の創造を大きな目標としています。

主催者・本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 アジアセンター 日本語事業チーム (担当:濱田)

Tel: 03 - 5369 - 6095 / E-mail: nihongopartners@jpf.go.jp

取材に関するお問い合わせ： 国際交流基金 コミュニケーションセンター(担当:川久保、麦谷)

Tel: 03 - 5369 - 6089 / Fax: 03 - 5369 - 6044 / E-mail: press@jpf.go.jp